

東 書 藝

令和6年12月

<http://www.toshogei.jp/>

'24東海書道藝術院宿泊研修会

岐阜市 ホテルパーク

令和六年の夏季宿泊研修会は、猛暑が続く九月八日、九日、岐阜市にあるホテルパークで行われた。金華山、岐阜城を望む長良川沿いの風光明媚な景色にこころ洗われる。研修メニューは、石黒鴻羽研修部長の講話「芭蕉と芭蕉の句碑について」、伊藤春魁、安藤餘香、吉田南洋の三先生による詩文書作品の実作と解説、休憩を挟んで院人有志の詩文書作品の鑑賞、そして会長風岡五城先生による総括と盛り沢山。興味深い講話と実作の鮮やかな筆さばき、そして総括の深いお話にて出席者は皆、充実した表情に見えた。その後に行われた懇親会



風岡五城 会長

では、鮎などの和食に舌鼓を打ちながら各社中交じり合って親交を深めた。

研修局のご苦労に感謝です。



伊藤春魁 副理事長



石黒鴻羽 研修部長



吉田南洋 常任理事



安藤餘香 副理事長



◆ 第40回記念清和会書展 ◆

西尾邑城遺墨展、40回記念展を終えて

代表 牧野邑翠

八月二十五日に六日間の西尾邑城遺墨展と四十回の記念展を無事終えることができました。暑い中にもかかわらず、沢山の方々にご来場いただき、

会員一同感謝申し上げます。ありがとうございます。

先生が突然亡くなられましたが、家の明け渡しし期限が切られて「何とかしなくちゃ」と、子供の教室、沢山の本や紙・墨等を片付け、作品を集め整理して何とか開催にこぎ



つけました。快く協力してください。表具屋さん、心の落ち着かない中、頑張って作品を書いた会員の皆さん、ありがとうございました。

書に沢山の賛辞をいただき、ありがとうございます。先生は本当に皆さんに慕われていたんだなとあらためて感じました。皆さんが「先生が喜んでいらっしやるよ」「今日の雨はうれし涙ですよ」と声かけしてください、私達も本当にうれしく、安心と大きな力をいただきました。

開催中は多くの東書藝の先生方はじめ、他の会の先生方もお忙しい中ご来場くださり、励ましのお言葉や多くの貴重なお話を頂戴できて大変うれしく、勉強になりました。閉めた教室の生徒さんやご家族も来てくださり、先生の思い出話もできて感無量でした。

今後は残った会員で、細々でも先生の御遺志を引き継いでいこうと練習会を立ち上げました。まだまだ未熟な私達ですが、皆様方の温かいご指導をよろしくお願いいたします。

また整理中にあちこちから出てきた先生の使いさしの多くの墨も、皆さんに貰っていただけてむだにせず済み、お話もできてこれにも感謝しています。そして絶筆を含めた先生の



会員寄せ書き

第50回記念宏道書展 創立50周年記念宏道書会代表展(東京展)

両記念展開催によせて
理事長 木村大澤

宏道書会が創立五十周年を迎え、記念の五十回展が八月二十日から二十五日、名古屋電気文化会館にて開催された。

念の祝賀会をコートヤードホテルバイマリオットで開催。多くの御来賓のご列席のもと、祝宴が行われた。大村愛知県知事の祝辞もあり、会員の喜びもひとしおであった。

半世紀の時を重ね、ここに大きな節目を迎えたことは、会員ともども大いに喜ばしい。

東書藝の中でも大所帯の宏道書会は、山本宏城先生が会を設立。風岡五城先生、山本晴城先生が会長として会を牽引し、多くの作家が育ってきている。東書藝の役員としても多くの会員が活躍し、その重責を担っている。

第五十回の記念展として、学生部において名古屋中警察署とコラボし、「交

通安全・防犯」に関する語を幼・小・中学生の課題とした。二十五日の授賞式で五十回記念賞や、中警察署長賞が授与され、大変好評であった。

多くの会員が活躍し、その重責を担っている。

最終日の二十五日には、記念の祝賀会をコートヤードホテルバイマリオットで開催。多くの御来賓のご列席のもと、祝宴が行われた。大村愛知県知事の祝辞もあり、会員の喜びもひとしおであった。

第五十回の記念展として、学生部において名古屋中警察署とコラボし、「交

通安全・防犯」に関する語を幼・小・中学生の課題とした。二十五日の授賞式で五十回記念賞や、中警察署長賞が授与され、大変好評であった。

第五十回の記念展として、学生部において名古屋中警察署とコラボし、「交

通安全・防犯」に関する語を幼・小・中学生の課題とした。二十五日の授賞式で五十回記念賞や、中警察署長賞が授与され、大変好評であった。

第五十回の記念展として、学生部において名古屋中警察署とコラボし、「交

通安全・防犯」に関する語を幼・小・中学生の課題とした。二十五日の授賞式で五十回記念賞や、中警察署長賞が授与され、大変好評であった。



名古屋展

第五十回の記念展として、学生部において名古屋中警察署とコラボし、「交

通安全・防犯」に関する語を幼・小・中学生の課題とした。二十五日の授賞式で五十回記念賞や、中警察署長賞が授与され、大変好評であった。



九月十日、十五日、栄サン
シテイーギャラリーで開催。

第27回東書藝選抜小品展



東京展

なった。本会は産経国際書会でも活躍しており、名誉理事長として風岡先生、副理事長として山本先生が手腕を発揮、全国レベルでの活躍も積み重ねている。そのことが、今回の成功に寄与していること

は言うまでもない。振り返れば、私木村は第十回展からの出品で、当時は金山の名古屋市民会館での開催。角材で壁面を組んでの展示であったことが、今でも思い出される。第十四回展から電気文化会館に移り、コロナ禍にも負けることなく、休まず毎年開催できたことは特筆すべきことである。

今後とも、皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

出品者	箭徳	紫藤	貝野	磯伊	湖光	丸麗	石磯
	嶺子	静典	田谷	浦岡	月園	垣穂	稲大
	楓子	香正	野野	菅河	満峰	志頭	川鬼
	嶺子	花松	田沼	菅立	青朱	坂原	篠竹
	勝洞	永壺	富堀	三三	皓玉	居枝	鳥松
	花紹	桂希	浦田	三三	香草	谷清	水横
	華泉	敬馨	田川	吉	舟泉	井	

メンバーは七十一回展で高評価を受けた院人三十名。出品者は次の方々です。

第50回記念'24心象展

代表 鈴木紫舟

初めに、残暑の中、高覧いただき、有難うございました。この場をお借りして御礼申し上げます。

先生はじめ、向井雲崖、牧以観、向井遊香、久野北崖、岩田冬崖の各先生方の作品は懐かしく、温かいものが心に溢れました。また三年前より次の若い人を育てる意味で、ジュニア展も展示しています。お蔭様で多くの方々にご来場頂けました。書のユニスコ無形文化遺産登録は書道界全体の悲願ですが、あわせて書道人口が増えることを強く願っています。今一度気を引き締め、次回展へ向けて歩み出して行きます。

心象展は故・梶田東崖先生が昭和四十九年に東書藝の会員以上を対象に、崇高な理念を追求する書家集団の育成を図り、心の形を表出する書展として心象展と命名し、第一回展を愛知県美術館にて開催。以後毎年行っています。自分の若い頃、東崖先生や先輩先生方の大作に感動し、私も早く出品することが夢でした。昭和五十九年に向井雲崖先生が好日社の社中展を提唱され、名古屋博物館にて開催していましたが現在は止めて、心象展を全会員の作品展・社中展としています。今回はベテランから初心者まで、四十五名の出品でした。記念展らしくと歴代代表の作品を展示。初代梶田東崖

最後に、道を拓き導いてくださった先生方・先輩方に、またこうして作品発表の機会が持てる事に心から感謝申し上げます。



社中の歩み

◆第17回攻玉書会展

(羽根田菖橋・米寿祝、羽根田菖風・豊田文化功労賞受賞記念)

8月31日～9

月1日、豊田市
民文化会館、羽
根田菖橋代表。



◆第58回碩山書院一門展

9月14日、15日、蒲郡市民
会館東ホール、大竹翠葉代表。



◆第66回游心書展

9月18日～23日、愛知県美
術館ギャラリー、松浦白碩代表。



◆第42回飯田書人会展

―幽石書道会合流展―

9月27日～10月1日、飯田
創造館、加山幽石代表。



◆第24回心書会展

11月3日～5日、亀山市民
会館、安藤清舟代表。



◆第47回梓会書道展

11月12日～17日、愛知県美
術館ギャラリー、勝川香艸代表。



◆第41回花墨会展

11月16日～17日、菰野町
書館、松岡麗泉代表。



今後の予定

◇'25今日の書展

会期 1月7日(火)～13日(月)

会場 愛知県美術館ギャラリー
主催 中部圏書芸作家協議会
中日新聞社

◇第60回新春東書藝代表作家展

会期 1月21日(火)～26日(日)

会場 電気文化会館東ギャラリー
主催 東海書道藝術院

◇院人研修会

期日 2月9日(日) 13:00～

会場 愛知県芸術文化センター
12F アートスペースA

◇第40回記念景雲社「絆」書道展

会期 2月25日(火)～3月2日(日)

会場 クリエート浜松3階
ギャラリー31

主催 景雲社(勝田晃拓)

◇第15回記念有鄰書展

会期 3月12日(水)～16日(日)

会場 岡崎市美術館
主催 有鄰会(安藤餘香)

◇第72回東海書道藝術院展

会期 4月8日(火)～13日(日)

第一会場 愛知県美術館ギャラリー
第二会場 名古屋市民ギャラリー栄
会場式 4月8日(火)

午前10時第一会場にて

贈賞式・祝賀会 13日(日)

名古屋ガーデンパレス
12時30分受付13時開始

主催 東海書道藝術院展
中日新聞社

編集後記

◇今年の最終号をお届けします。
◇ついこの間までの酷暑がうそ
のように時は進む。空に鰯雲を見
つけた時はホッとしました。季節を
大切に感じていたと思う瞬間。
◇来年は乙巳の年、皆様どうぞ
良い新年を。一年間有難うござ
いました。

令和六年十二月 第一五三号

発行 東海書道藝術院

編集 加藤 松亭

堀江 龍舟